学校法人　滋慶学園　札幌ベルエポック製菓調理専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果および改善方策

平成24年度自己点検自己評価（平成24年4月1日～平成25年3月31日）による

大項目	点検・評価項目	自己評価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	学校関係者評価委員の評価点（平均点）	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	実学・人間・国際教育の「建学の理念」及び、「4つの信頼」として学生・保護者、高等学校、業界、地域の4つの対象者からの信頼獲得を目指しており、周知方法として、学外に向けては学校案内等、学生へは教育指導要領に明記して周知を図っている。		2.8	①全職員、講師に理念や精神が浸透するように願います。 ②離職に関しては、当社にも数名の卒業生が勤務しているが、他校の学生さんよりもいずれも長期に渡って勤務していただきました。 ③中退防止の取り組みは素晴らしく、学園のネットワークを利用した転科や転校制度など学生が学び続けていく環境が提供されていると思います。 ④現場での実習の日数を増やしてみてはいかがでしょうか。企業としても学生としても、互いを知る良い機会であり就職にもつながりやすくなると思います。
	1-2 学校の特色は何か	3	「現場力教育」こそが本校の特色であり、具体的な教育プログラムとしては、「ワンハートサービス（学内店舗実習）」や現場実習、海外研修等を積極的にカリキュラムに組み込んでいる。			
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	3	学校運営の計画については、5年先を見据えた計画（5ヵ年計画）のもと、単年度の事業計画を策定している。	具体的には、5年後の学校のあるべき姿として、受験者の（＊）出願率70%、在校生の中退率0%、卒業生の離職率0%を目指し、これが達成されることで、財務指標である経常収支差益40%の達成を目標としている。　（＊）出願率＝オープンキャンパス参加者のうちの出願者の割合		
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3	組織として、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。	各種の研修（教職員・講師）、会議（運営会議・学科会議・課別会議等）で運営方針の確認を行い、全教職員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。	3	⑤社会は常に変化しています。その変化に対応した、一本筋の通った教育の提供をお願いします。
	2-5 事業計画は定められているか	3	学校として、運営方針同様に、事業計画を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、学校として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てることと、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして共感してもらうことに、年間を通じて力を入れている。	事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。その運営のチェック機能として①学園の常務会議、②学校ごとの戦略会議（運営責任者会議）、③運営会議（学科責任者会議）、④学科会議、課会議があり、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを確立している。		
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3	意思決定に関しては、学校単位での意思決定は月2回実施される「運営会議」、部署単位では「学科会議」、その他臨時で発生した問題解決のためのTBM（ツールボックスミーティング）を実施しており、速やかに問題解決が図られる体制になっている。	①会議の進行ルール ②議題発信と議事録配布・保管のルールを重視している。 ③会議についての研修を実施している。		
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	すべて就業規則に明記されている。また採用計画と人材育成のための研修については、システムとして確立され有効に機能している。　採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた評価や賃金決定、人事が行われている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務（例えば、入学式・卒業式担当、クラブ活動担当、資格試験担当など）も過程を評価できるようプロセス評価として、情意考課を導入している。		
	2-8 意思決定システムは確立されているか	3	意思決定は、2-6に明記した会議システムとして確立されているが、学校という業務特性上、会議の場だけでなく現場（クラス内）でスタッフ1人1人に判断を委ねられる場面が多々ある。その時には建学の理念・4つの信頼を判断の根拠として決断を下す組織文化が根付いている。	意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視している。常に『何のため』を意識して会議を実施しており、議論に必要となる資料は、担当者が事前にデータ分析などを行い、準備している。また、会議で決定されたことは次回の会議で進捗状況を振り返ることで、漏れや遅滞を出さないよう工夫している。		
	2-9　情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化が図れている。	学生に関する情報管理（入学前から卒業後まで）はAS400システムにて本部とも連動し、セキュリティ、バックアップの両面からも優れた管理がなされている。 そのことが、例えば出席不良から発生する中途退学防止や、経済的支援学生の早期発見につながり学生支援へとつながっている。		

3 教育活動	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられている。各学科の教育目標、育成人材像は、常に業界のニーズを反映させるため、業界調査、学科調査、競合校調査を毎年秋季に行い、そこで現れる業界ニーズに確実に応えられる教育目標、育成人材像を設定している。	人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目的の見直しやカリキュラムの再構築に専従的に関わるFaculty Development Coordinator（FDC）が組織されており、定期的にFDC会議の中で学科の運営状況をチェックする機能を持っている。	3	⑥「教員力＝学校の力」とすると常に教員の研修は必須であると感じます。学校と講師の風通しの良い関係を構築できれば磐石です。 ⑦資格試験に不合格になった学生までフォローするシステムは良いと思いました。
	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	3	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして明確に定められている。	目標を段階ごとに明示し、学習のステップを学生に常に理解させている。このため、目標への動機付けを行いやすい。		
	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	3	カリキュラムの編成に関しては、3つの教育システム（PCP教育システム、CPI教育システム、MMPプログラム）によって、体系的な形が保たれている。上記より、学科のスタート（入学前）からゴール（卒業後、就職）までに必要な学習内容と学習期間、及び学習ステップを勘案したカリキュラム体系を構築できていると考える。	特に専門知識・技能（プロフェッショナルプログラム）については更に3つの科目群（学科の課題となるキーワード）に分け、それぞれに対応した科目を位置付けている。学科長、Faculty Development Coordinator（FDC）が主としてコーディネートしている。それを受けて、学園の諮問機関にプレゼンをし、素案の内容を精査し、実行カリキュラムの完成となる。システムとしては、各講師による専門的な眼と、調査による現状把握、そして、最終的に学園全体で統一した考え方のもと、その年度にあったカリキュラムを提供できる体制になっている。		
	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	3	学科の各科目は、MMPプログラムとシラバスによって、その内容、関連性から適正な位置づけを行うことができている。	シラバス作成に力を入れている。①講義概要②科目目標③定期試験（日時・実施内容・評価基準・評価方法）④使用教科書⑤使用教材⑥到達目標と授業内容（各回）⑦教科書・使用教材（各回）これらの項目を確実に記載することで、学生に授業内容がイメージできるシラバスになるようにしている。このシラバスは学科に所属する専任講師とシラバス作成講師が相互にチェック機能を持って作成しており、単に授業を担当する講師が作成したものとは違い、コンセプトの統一感や他講義との関連性において整理されている。また、シラバスの中では一コマの授業内容の説明は大枠になっており、授業ごとにコマシラバスという形で、その日行う授業内容をより細かく明示した様式を配布し、授業に取り組ませている。コマシラバスでは、その授業での目的、講義内容、授業内容の確認のために行う小テストの配点を明記している。シラバスを詳細部分まで抽出して作成し、学生・講師が活用することで、学生及び講師も科目の関連性を意識しながら授業を進める体制が出来ている。		
	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか	3	キャリア教育の定義としての「5つの現場力」を明確にし、その定義に沿って評価している。また、ポートフォリオ（学習記録）を活用することで、入学前から卒業後まで計画的にキャリア教育を実施し、その成果を「見える化」している。	キャリア教育とは『学問』ではなく、“体験－記録－経験”というプロセスを経ることにより形成されていくと考えている。講義として実施し、論理構築や意識付けを行うことも大切な要素であるが、実習・体験を中心に位置させ、その事前教育（目的・到達イメージ）→「実習・体験」→事後教育（体験の検証・次の課題）を組み入れることにより、具体的な自己イメージを醸成できると考える。滋慶学園では、教育フローの中で、この位置づけを初期教育の導入から実施して行き、実習やイベント時にチームマネジメントの要素を効果的に組み入れることで、相乗効果（同じ目的・目標へ向うプロセスを他者と共有する体験）が生まれるものと考える。従って、事前教育の構成とチームマネジメントの要素が滋慶学園のキャリア教育の基本的な考えであると言える。		
	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	・授業アンケートを年間2回実施し、その都度教員へのフィードバックを実施している。また、そのアンケート結果を、教員の契約更新の判断の1つとして活用している。			
	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	学科の育成目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストであること、また、同時に講師要件を満たしていることを講師採用において重点を置いている。	採用決定の講師は、講師会議、科目連絡会を通して、授業運営に対する情報の共有化、成功事例の共有、また、学校側の考え、希望する方向性、養成したい学生像を共有し、問題・情報の共有、解決につなげている。特に授業報告書を元にした、担任（学科長）と講師との意見交換が、上述の共通理解と情報共有においてタイムリーに機能していると考えている。		
	3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	3	定期的に「専門職研修」を実施し、教員の学生支援、クラス運営力を高める研修を実施している。	左記以外にも研修に力を入れており、例えばパティシエ科では、フランスのチョコレートメーカー「ヴァローナ社」が主催するチョコレートの実習の教授力向上を目指した教員研修を実施している。		
	3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3	評価基準を明確にし、学生が公平・公正に評価を受けれるよう、「教育指導要領」「学生便覧」に明記し、学生・講師・教員共有の基準としている。その基準を基に学生の指導・支援にあたっている。	基準の遵守は徹底的に行っている。また一方で、すべての学科、留年の学生を安易に出すことはせず、必要なレベルまできちんと到達させた上で進級、卒業を出来るように、成績不良が予想される学生に対しては、早期段階から補習や特別授業を実施し、不足している部分を補う体制をとっている。明確な基準と共に、柔軟な対応が出来る余地を残すことで、全ての学生が学科の目標を達成した上で進級及び卒業が出来る体制を作っている。		
	3-18 資格取得の指導体制はあるか	2	資格取得のための指導体制はシステム化できており、国家資格である製菓衛生師試験に関しては、独自問題集及び模擬試験の作成と活用、低学力者対策など、きめ細かい支援が整っている。毎年100%合格を目指す事が目標。	結果として、パティシエ科の製菓衛生師は開校以来の合格率98．7%（621名受験613名合格）、調理師科の専門調理師技術考査は97．2%（250名受験243名合格）は、ともに全道1位の実績である。また、不合格者に対しても合格するまで無償でサポートする制度があり、卒業生全員が合格できるよう努めている。		

4 教育成果	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2	24年度は、卒業生数210名中、就職希望者191名で就職決定者は182名。就職率は95.3%であった。就職者182名中、専門就職内定者162名で専門就職内定率が89%という状況であった。	【キャリア会議】 キャリアセンターが中心となり、各学科の担任と学科責任者が出席し、その時々の情報共有を行い、特に学生個人個人の状況確認をし、キャリアセンターと学科間に思い違いが生じないよう注意している。【就職結団式＆業界模擬面接会】 業界の採用担当者に本番の採用基準で、学生に模擬の面接を実施していただく 【履歴書作成＋面接指導】 自己PRと志望動機について、学生と相談しながらより魅力的な内容となるよう、徹底指導を実施。また面接本番に向け、学生は職員から面接指導を受けることを基本的に義務化している。そして、面接指導をした職員は、各学生のウィークポイント克服に向けて、他の職員に情報を共有し次の面接練習に生かす工夫をしている。	2.5	⑧(卒業生代表より)数字だけで評価すると課題があるように見えますが、先生方の取り組みや努力は大変素晴らしいものだと思います。 ⑨退学率が低いということは学生満足度が高いということだと思います。目標であるゼロに向けて頑張ってください。 ⑩試験対策に独自の問題集を作成されているとのことですが、このような地道な活動が評価できると思います。 ⑪専門学校に進学したのだから、学んだ分野に就職することが大事だと思います。専門職就職率100%に期待します。 ⑫業界共通の課題は「人材の確保」です。学校には地域との人材の橋渡し役を期待します。
	4-20 資格取得率の向上が図られているか	2	資格取得に対しては、それぞれ年度当初に目標を設定している。また、国家試験に対しては常に合格率100%を目標としている。理由は、国家試験を取得することが、将来の仕事に通じるという特性があるためである。各学科で資格取得の目標を達成するために、対策を立案し実行している。 なお、国家資格に関しては万一不合格だった場合、本人希望がある限り、合格するまで無償で支援を継続している。	国家資格の合格率を向上させるため ① 過去問題を分析し、独自の問題集を毎年作成していること、低学力学生の学力を底上げしていることが、高い合格率の維持に大きく貢献している。 ② 国家試験対策センターを中心に、次年度への更なる合格率向上(100%達成)を目標として、毎年国家資格受験対策に関する総括(問題の洗い出しと対策立案)を実施している。 ③ グループ校の同学科で構成される教育部会を設置し、100%合格のための仕組み作りに全力を注いでいる。		
	4-21 退学率の低減が図られているか	3	専門学校の退学者率の水準が一般に10%～15%と言われている中で、本校の24年度実績は、1.6%(在籍384名中退学者6名)で、低減度合は高いレベルにあると考えている。中途退学者をゼロ名にすることが、学園全体の目標となっており、職員も目標に向かって志を高く一丸となって取り組んでいる。	システム化とマニュアル化による教育力の向上。他に、 問題学生の理由分類を分析し、その状況に合わせた学生支援・指導およびクラス運営をして、効果をあげている。また、問題学生支援シートを担任ごとに作成している。週末及び学生に変化があるごとに更新をしており、それを元にスタッフ・部長・スチューデントサービスセンター で情報を共有できるようにしている。		
	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	卒業生、在校生の活躍の1つの例として「コンテスト」での入賞実績をツールにして記録している。また、開業者がパティシエ科で1名、調理師科で1名、カフェビジネス科で11名おり、年々増えてきている。また、活躍の姿をパネルや印刷物にして学内外にアピールしている。			
5 学生支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	2	就職率向上の欄でも総括した様に、目標は、卒業生数に対する就職内定率100%であり、そこに向けてはまだまだ課題がある。クラス担任・副担任と就職担当者(キャリアセンタースタッフ)との更なる連携、保護者との連携を強化し、就職意欲の維持や就職への動機付けを原点回帰して強化したい。		3	⑬学校側の学生へのケアは十分行なわれていると思います。離職に関しては学生と職場のトラブルや学生自身の精神的な部分も関係してくるため、学校側でできる事は十分行なわれていると思います。 ⑭自己評価では2をつけていますが、職員が一丸となって学生を支援しようという気持ちが学生に伝わっていると思います。学生支援は過保護にならないようにする必要があり、本人の努力を引き出す支援に期待します。 ⑮この業界は、労働時間の多さや賃金などを保護者に理解していただくのは難しい業界だと思います。 ⑯学生寮を完備していて学生や保護者の安心につながっているのは良いと思います。
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	3	SSC(スチューデントサービスセンター)を設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備され、しかも有効的に機能していると考えている。	全教職員が「JESCカウンセラー資格」を取得し、カウンセリングマインドを持ち相談に乗っている体制を築き上げている。学生が中途退学しないよう、進路変更委員会を設け、他の学校に転校・編入できるシステムが整っている。以上のことから、学生相談体制は高いレベルであり、それが、専門学校としては驚異的な低退学率の実現に結びついていると考えている。		
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	学費理由での中退者が皆無であるように、学生への経済的支援は高いレベルで出来ていると考えている。学費相談に関しては、ファイナンシャルアドバイザー研修を受けた担当者が家庭の事情に合わせた支払い計画の立案を行なっている。	課題としては、卒業生の奨学金未返還者が多くいることであり、返還率向上のために卒業後の離職防止を含めた対策立案と実行が今後の課題となっている。		
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	「慶心会」や「スチューデントサービスセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。 また、一人暮らしをする学生については、希望者には学生寮が完備されており、寮長寮母が親代わりで生活面もケアしてくれている。 学校と(特に担任)連携を取り、学生の変化などには細かい部分まで気を配り対応している。	健康診断の一次検診で問題が発見された学生は、二次検診を受診させており、更に判定内容によっては、一般的なレベルよりも高いレベルで治療を義務付けている。		
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2	サークル規約下で、各種部の活動は運営されている。よって、課外活動の支援体制は整備されていると考えている。その運営ついては、学生に主体的に関わらせ、外部とのコーディネートを職員がやっている。 そのことにより学生自身に責任感ができ部活動自体が活気を得ている。			
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	一人暮らし学生のための学生寮も完備されており、生活環境への支援は十分できていると考えている。特に、学生寮には寮長、寮母が常駐しており、急な病気や怪我などの際には保護者代わりとして対応して貰っている。	定期的に寮会議を実施し、寮と学校との連携を図っている。		
	5-29 保護者と適切に連携しているか	3	入学前にはオープンキャンパスでの「保護者会」を実施、また在学中も「公開授業・保護者会」を実施、定期的に学校に足を運んでいただき、相談できる体制を整えている。また、「学校だより」を発行し、行事の報告や中退防止に向けた家庭での支援も呼びかけている。 また、学費問題に対する支援体制も、保護者の立場に立った考え方、行動、協力が出来ていると考える。			
	5-30 卒業生への支援体制はあるか	3	キャリアセンターが窓口となって、卒業生の転職・就職を支援する体制がある。(生涯サポートシステム)	年1回の同窓会では、勉強会形式の「キャリアアップセミナー」を実施し、卒業生の資質向上を図っている。 また、近年では卒業生支援の一環として、卒業後1年以内の離職をゼロにしようと いう取組みを実施しており、5年以内にゼロ名にすることを目標に掲げている。		

6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	カリキュラムの割合からも、実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が、実際の現場で使われている設備を整えていることが必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はしっかり整備されていると考えている。また、各教室、実習室は、各種の申請に必要な条件を全てクリアした環境としての承諾を得ている。	施設・設備のメンテナンスは専門のグループ企業が担当している。学校の窓口は、学生サービスセンターが担当し、不具合があった場合は企業担当者に連絡し修理を依頼する。学園全体の考えで、小さな不具合にもすぐに対応することが原則となっている。小さな修理でも迅速に対応して貰える体制となっており、学生の教育環境の維持に努力している。 椅子や机などの機器・備品についても、修理や補充が必要な場合は、学生サービスセンターが業者に連絡を取り、迅速な対応をして貰っている。	3	⑰とても良く環境整備されていると思います。 ⑱工事業者さんの出入りを目にすることが多いので環境整備は評価に値すると思います。
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	学外実習（現場実習）、海外研修を行うことは、建学理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わっており、その教育効果は大きいものと考えている。 各学科とも1年次冬と2年時夏に学外実習（現場実習）を実施、1年次冬に海外研修を実施し、フランス・イタリアの食の本場で高いレベルの研修を実施できていると考える。			
	6-33 防災に対する体制は整備されているか	3	年1回の避難訓練の実施のほか、学生及び教職員・非常勤講師に対して防災マニュアルの配布及び防災ビデオの視聴による啓蒙を実施している。また、建物は耐震構造の建物であり、ロッカー等の転倒防止の対策も講じている。	その他、学内にAEDを設置し、教職員も使用方法に関する研修を受けている。		
7 学生の募集と受け入れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	3	本校は、北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルール及び学則を基に、募集開始時期、募集内容を遵守している。また、受験生ならびに保護者目線に立った学校選びのためのサポート（交通費補助制度そして格安宿泊制度）に関しても、充実していると考えている。	学生募集活動は、入学案内等の印刷物、HP等のWEBを活用している。また、直接受験生と接する「オープンキャンパス」「地方での進学相談会」などを積極的に実施している。	3	⑲先日どこかの専門学校で、AO入試で合格者が決定し一般入試を実施しなかった学校がありましたが、そのようにならないように適切に入試を実施していただきたいと思います。 ⑳少子化の時代、学生募集は苦しいと思いますが、現実感のある説明を中心とした広報活動を期待します。
	7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	本校では、数字の分母・分子を明らかにした就職率、資格取得実績の公表のほか、他校ではまず行なわない（公表できない）「中退率」の公表まで行ない、虚偽のない広報活動を心がけている。			
	7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	学則を基準とし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。 合否判定は、入学選考日に実施する「入学者選考委員会」にて公正に判定されている。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、選考評価表と受験生カルテ（資料請求時から体験入学参加記録、電話やメールでのやり取りを書き留めたもの）を調査書同様に重視して選考している。結果として、学力のみにとらわれない、やる気（モチベーション）の高い学生確保に役立っている。 また、24年度生広報より、AO入試では学力（＝調査書）に捉われず、キャリア教育の一環として、やる気をより重視した学生確保にチャレンジしている。		
	7-37 学納金は妥当なものとなっているか	3	学納金は適正かつ妥当なものと考えている。 また、財務の情報公開も私立学校法の改正の義務づけに合わせて、本校でも平成17年4月1日から法人単位での公開体制を取っており、学納金が公正に使われているかを公表している。	募集要項上において、年間必要額を明示するため、受験生や保護者にとっては、年間支出額が把握できるため、計画が立て易いといる利点がある。また、受験生に対しては、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場に立ってのアドバイスを実施している。		

8 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過になったり、資金不足になったりする状況にはなっていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。 5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていくと考えている。	指揮命令の系統が明確になっており、内部承認体制が確立されている。	3	21最近どの企業も資金繰りの困難による裏金問題が多いため、健全な運営を期待します。
	8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているので妥当な方法と考えている。5年を見越した中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実に即した予算編成になっているものと考える。学校の財務体制を管理し、健全な学校運営ができるように予算・収支計画は有効かつ妥当な手段として利用されている。	当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	8-40 財務について会計監査が適正に行われているか	3	現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考える。 監査を有効に実施してもらうために、書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	8-41 財務情報公開の体制整備はできているか	3	財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。		
9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは整備されている。定期的に行なわれる厚生労働省等による監査もクリアしている。 また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準に対する教育または研修を、リーダーと実務担当者で実施している。		2.8	22 9-45の情報公開に関しては早急に実施していただきますようお願いします。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了している。今後は個人情報保護の教職員への啓蒙(＝研修。制度確立済み)と、その運営体制の整備に力を入れることを考えている	外部機関の「TRUST-e」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。また、TRUST-eより年に一度研修を受けている。		
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3	自己点検・自己評価に関しては、開校以来、毎年度末に事業計画に基づいた総括を実施し、収支バランスや、教育力、就職力、広報力について数字結果から点検を実施し、問題発見できたことは、次年度の課題として引継ぎ、その課題を克服する事業計画を作成し、その改善に努めて来た。その積み重ねの結果が、受験生、保護者、高等学校からの信頼として徐々に形になりつつあると考える。また、平成22年度には、道内専門学校初、唯一となる「第3者評価」を実施し、認証を得ている。			
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか	1	自己評価を行うという評価体制作りはできた。しかしながら、自己点検・自己評価の情報公開については、平成25年10月31日現在、まだできていない。 上記の第3者評価については情報をHP上で公開している。	速やかにHP上での情報公開を進めていく。		

10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2	学校内施設を活用した学内店舗実習（ワンハートサービス）を実施し、地域の住民に方に安価で良質のケーキ、フルコース料理、カフェ、パン販売を実施している。 また、「子供料理教室」に代表される、食育を目的とした地域のイベントのために学内の実習室を無償もしくは安価に提供している。	ワンハートサービスにおいては、地域住民の方に取り組みが浸透しており、リピーターも多く獲得している。	2.8	23製菓調理の専門学校が、社会貢献として「食育」を目的としたイベントを行なうのは有意義だと思います。ぜひ広く社会にアピールしてください。 24学内店舗実習はとても良い取り組みを行なっていると思います。学生にとってもお客様と接することで地域の方の笑顔を知り、地域の方にとっても学生の心意気を理解していただくことができると思います。しかし、実施日程を当日知ることが多いため、事前に告知をする工夫をお願いします。 25地域住民として数年前は休憩時間の学生による騒音が気になっていたが最近は皆無です。たまに学生の喫煙を目にすることがあることが残念です。家庭内での教育力が落ちている今、学校での指導に期待します。
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	上記「ワンハートサービス」の収益金を、難病と闘うこどもが持つ夢の実現の手伝いをすることを目的とした「メイク・ア・ウイッシュ　オブ　ジャパン」に寄付している。	また、2004年に起きたスマトラ沖地震の津波、2008年の中国四川大地震、2011年東日本大震災の際に、学生が募金を積極的に実施した。		
国際交流 11	11-48 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	3	パティシエ科においてはフランスのチョコレートメーカー「ヴァローナ社」と提携し、また、調理師科においては、イタリアの料理研修機関「イチフ」と提携し、学内での特別授業および現地での海外研修がカリキュラムに組み込まれている。	海外研修においては欧州での研修となるため参加費用が40万円前後と高額になるため、姉妹校との合同実施することで旅費を削減するなど、学生が参加しやすくなるよう努めている。	3	26こちらから出向くことばかりが国際交流ではないと思います。在日外国人等との交流も有効ではないかと考えます。 27本場での研修は非常に良いと思います。ベルエポックから優秀な人材が世界に輩出されることを期待します。

◆学校関係者評価委員の御意見に基づく改善方策

【改善実施を決めたもの】
意見⑲適切な入試実施について・・・これまでも遵守してきた事であるが、AO入試だけで入試を終えずに募集要項に記載どおりの入試内容、日程を遵守することを決定。
意見22情報公開について・・・早急に実施する事を決定。11月15日に本校ホームページ上に情報公開ページを設置完了。
意見24学内店舗実習における事前告知について・・・広く知らせる事の必要性を確認し、直近の12月3日、5日、12～15日開催分からホームページにて告知する事と、ちらしを作成し近隣地区に配布する事を決定、実行した。

【学内で現在検討を進めているもの】
意見④現場での実習日数増について・・・検討中
意見26学内での国際交流実施について・・・検討中